

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 越前町地域公共交通活性化協議会 (越前町)

平成 2年12月18日設置

令和 3年 1月28日 越前町地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

令和 5年 6月22日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

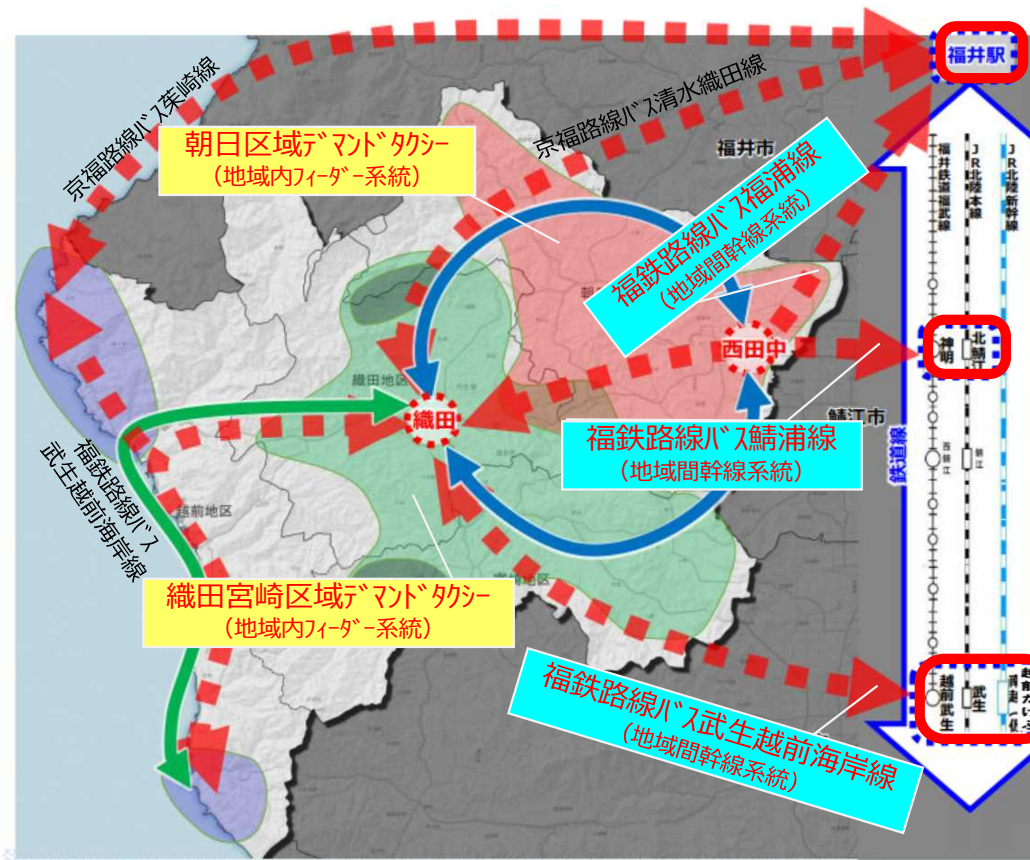
令和 6年 1月12日 令和5年度評価結果送付

## 【越前町の概要】

人口：20,229人（R5.4.1時点）  
 鉄道：軌道なし  
 路線バス：京福バス（4路線8系統）  
           福井鉄道（4路線5系統）  
 コミバス：環状2、巡回1、乗合1  
 デマンドタクシー：2区域

## 【計画策定の背景】

利用の少ないコミュニティバス路線の約半数を廃止し、代替手段としてデマンドタクシーを導入



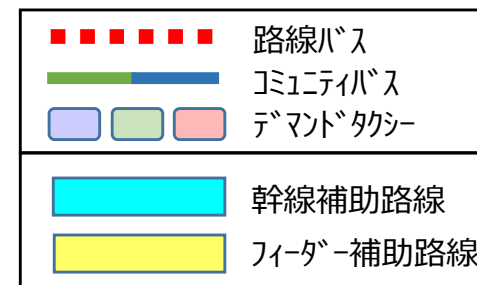
越前町公共交通ネットワークイメージ図

越前町地域公共交通計画から引用

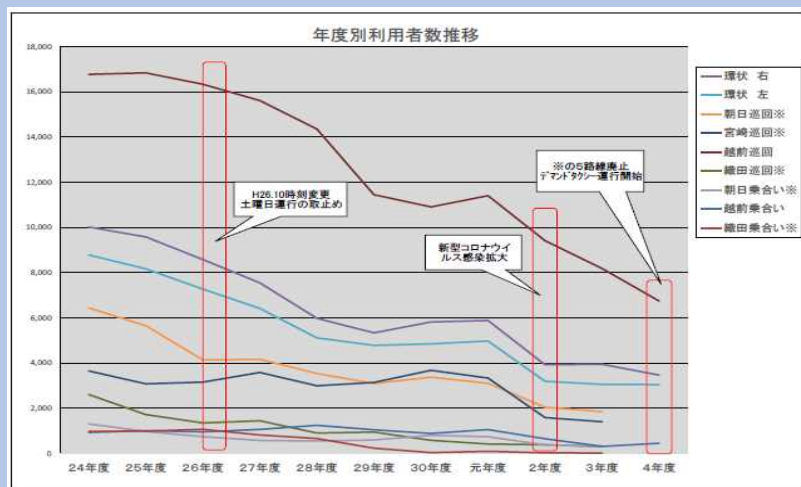
## 計画の基本方針

### 「皆で守り育てる公共交通ネットワークの形成」

- 目標1 町内外を移動できる公共交通のネットワーク化
- 目標2 誰もが利用しやすい環境づくり
- 目標3 行政と住民との協働による公共交通の活性化



取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
コミュニティバス「フレンドリー号」の運行	R4交通体系見直し後、4路線でコミュニティバスの運行を継続。	利用者数 R4.4～R5.3 13,703人 ➡ R5.4～12 9,937人 (1ヶ月当たり38人の減)	コロナ禍前の回復が見込めない中、人口減少もあり、一部路線での利用者減が顕著。
★デマンドタクシー「チョイソコえちぜん」の運行 (ワイダ-補助受給系統)	2区域でデマンドタクシーの運行を継続。 新たに停留所を2箇所追加。	利用者数 R4.4～R5.3 1,512人 ➡ R5.4～12 1,459人 (1ヶ月当たり36人の増)	利用者はリピーターが多く、新規利用者の獲得に伸び悩み。 要望の多い開業医を中心に、指定停留所の追加や名称変更を検討。
デマンドタクシー利用促進活動	CATVなどでデマンドタクシー利用促進を呼びかけ。	利用登録者数 R4.12月末 250人 ➡ R5.12月末 347人	登録者数は徐々に増加しているが、新規利用者数が伸び悩み、今後も利用促進に向けた周知活動が必要。



コミュニティバス利用者数の推移



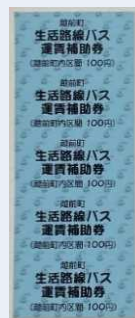
ケーブルテレビ番組



ケアマネ連絡会

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
運転免許自主返納 臨時窓口の設置	警察署と連携し、役場で自主返納ができる臨時窓口を設置。	8月：3会場 5名 12月：1会場 5名 コミュニティバス無料乗車券やデマンドタクシーの手続きを併せ行った。	臨時窓口の利用者が徐々に増加。免許返納に併せ、公共交通の利用促進を図った。
高齢者運賃補助事業	町内区間を運行する路線バスにコミュニティバスと同じ料金で乗車可能。	乗車料金を等しくすることで、一方に利用者が偏ることがなくなった。	料金が低額なコミュニティバスに利用者が偏らず、路線バスにも一定数乗ることで運賃収入が確保できている。
通学支援補助事業	高校生が通学のために購入する路線バス定期券の購入補助。	通学定期券購入者270名が制度活用。 R4補助総額29,778千円。	補助制度があることで、バス通学する学生が多く、運賃収入増に繋がっている。
低乗車率路線バス（町単 独路線）の見直し	運行事業者との協議および地元説明会の実施。	R6.4～ 清水織田線（京福）減便 安養寺線（福鉄）廃止 継続協議中 西田中宿堂線（京福）廃止	今回、廃止を見送った西田中宿堂線（京福）は、代替手段も含め引き続き協議予定。

### 運転免許自主返納臨時窓口の設置



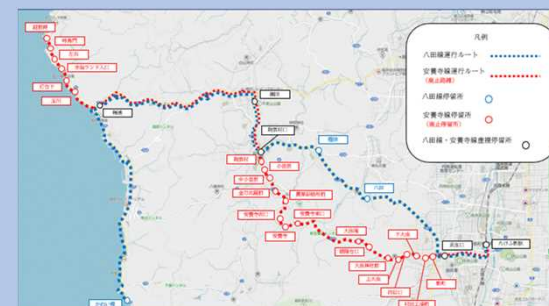
**高齢者運賃補助**  
コミュニティバスと同じ料金で  
路線バスが利用できる。

**通学支援補助**  
定期代金の約半額を  
補助。バス電車通学の  
全ての高校生が制度  
を活用している。



### 低乗車率路線バスの見直し

武生越前海岸線（安養寺経由）を廃止し、  
（八田経由）の国庫路線維持を図る。

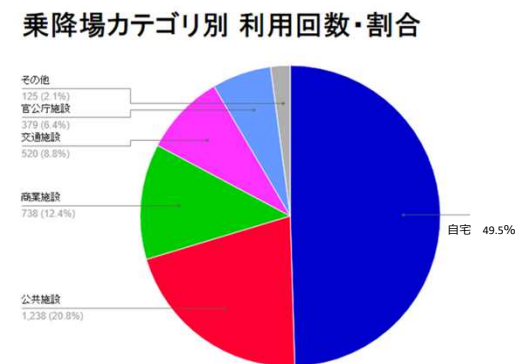
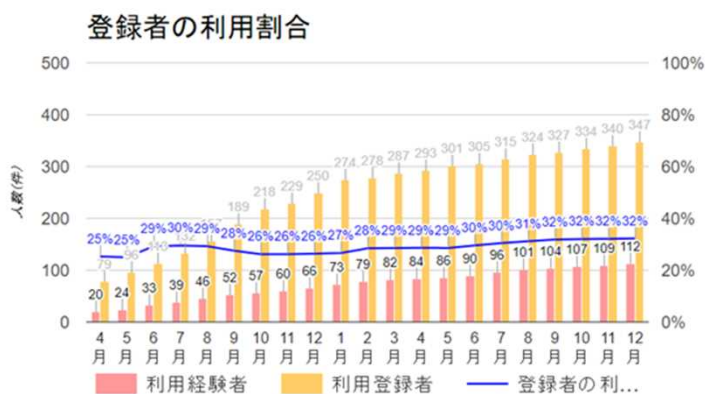




計画目標		達成状況					考察
目標指標	目標値 (R7)	1年目 (R3)	2年目 (R4)	3年目 (R5)	4年目 (R6)	5年目 (R7)	
公共交通利用者数 路線バス・コミュニティ バスの合計	23万人	25.4万人	23.2万人	22.0万人 (見込)			人口減少率を考慮した目標で現利用者数の維持を目指す
コミュニティバス1便 あたりの利用者数 (定時路線)	7.0人	2.9人	3.7人	3.7人 (見込)			2年目の低乗車率路線廃止により数値やや改善
公共交通に対する 越前町負担金 路線バス・コミュニティ バスの負担額	90,000 千円	106,505 千円	117,739 千円	117,966 千円 (見込)			2年目の公共交通体系見直しによりコミュニティバスに係る負担は減少したが、コロナ禍以降、路線バス維持に係る費用が増加
集落カバー率	100%	100%	100%	100%			コミュニティバスの一部を廃止しデマンドタクシーに切替え、集落カバー率を維持
公共交通の利便性 町民満足度	45%	—	—	—			4年目にアンケート調査を予定

## デマンドタクシー「チョイソコえちぜん」の達成状況

- 生活交通確保維持改善計画より令和5年度フィーダー系統の利用者目標は3,882人と設定。運行開始から2年目に入り、利用者は増加傾向にあるものの、運行区域によって実績に差が生じており、朝日区域においては利用者数・運行回数ともに目標を大きく下回っている。
- 宮崎織田区域の運行回数は目標値を上回ったが、運行区域内での移動距離が短く、乗合がしにくい状況による。
- 各運行区域において、地域間幹線である路線バスと接続するバスターミナルでの乗降が約5%あり、乗り継ぎ利用が行われている。

路線名 (期間R4.10～R5.9)	目標値 (利用者数) (運行回数)	実績値 (利用者数) (運行回数)	達成状況	考察
朝日 デマンドタクシー	2,169人 976便	548人 468便	未達成 未達成	宮崎織田区域には主要な商業施設・病院があり、朝日区域利用者から区域を跨いだ利用要望がある。  区域で実績に差があることについて、運行区域の再設定など、引き続き現状把握と分析に努める。
宮崎織田 デマンドタクシー	1,713人 976便	1,362人 1,141便	未達成 達成	



評価指標	計画目標の現在の到達地点	今後の取組方針
公共交通利用者数	人口減少率を考慮した目標値であったが、予想を上回る減少が進んでおり、目標達成は難しい状況になりつつある。	<p>県内路線バスにおいて、R6.2.24よりICカードが導入され、これまでの定期券や回数券の取扱いに一部変更が生じる。HPや広報などで、変更点や利用方法、利便性を分かりやすく周知し、普及促進と利用促進を図る。</p> <p>➡ ICカード導入により利便性が向上し、新規の利用者も期待できる。利用者数の減少を抑え、目標値の達成を目指す。</p> 
コミュニティバス利用者数	低乗車率路線廃止により、若干数値は改善したが、目標達成は難しい状況。	<p>コロナ禍以前の回復が見込めない中、海岸区域の人口減少が進んでいることもあり、これまで多かった海岸部を運行するコミュニティバス利用者数の減少が顕著。</p> <p>➡ 路線バスが重複する海岸部の路線集約に併せ、コミュニティバスのダイヤ改正等を検討。次期計画に向け、現況把握に努める。</p>
デマンドタクシー利用者数	現状では目標値は未達成であるが、増加傾向にある。	<p>希望時刻の乗車と自宅前での乗降は利用者に好評。引き続き利用促進を図るほか、指定停留所の追加や運行区域の再検討を行い、利便性の向上に努める。</p> <p>➡ 目標年度（令和7年度）での目標値の達成を目指す。</p>
公共交通に対する町の負担金	路線バス維持に係る負担金の増加により目標達成が困難な状況。	<p>利用者数の減少等により国庫補助要件を満たせず、さらなる負担金増が懸念される。</p> <p>➡ 一部区間で見られる路線の重複について、バスターミナルを核とした減便や集約により国庫路線の維持を図る。</p> 

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和4年度)	地域公共交通計画に沿って各種事業を着実に進められるとともに、事業の進捗管理についても併せて取り組まれるようお願いします。	協議会スケジュールも調整しながら、適正に事業が進められるよう、進捗管理を行っている。	R4年度からの新体系について、R6年度に町民アンケート調査を実施し、効果検証を行う。必要に応じて計画の見直しや、次期計画への反映を検討する。また、R6年度に車両の老朽化に対応した計画的なメンテナンスを行う予定。
	地域公共交通計画の目標、実施内容、実施結果に関する評価・分析を定期的に行うとともに、必要に応じた見直しを進められることを期待します。	R5.6月の協議会で前回二次評価結果報告、R5.11月の協議会にて今回の自己評価報告を行った。	協議会において委員の意見も伺いながら、必要に応じて見直しを進める。

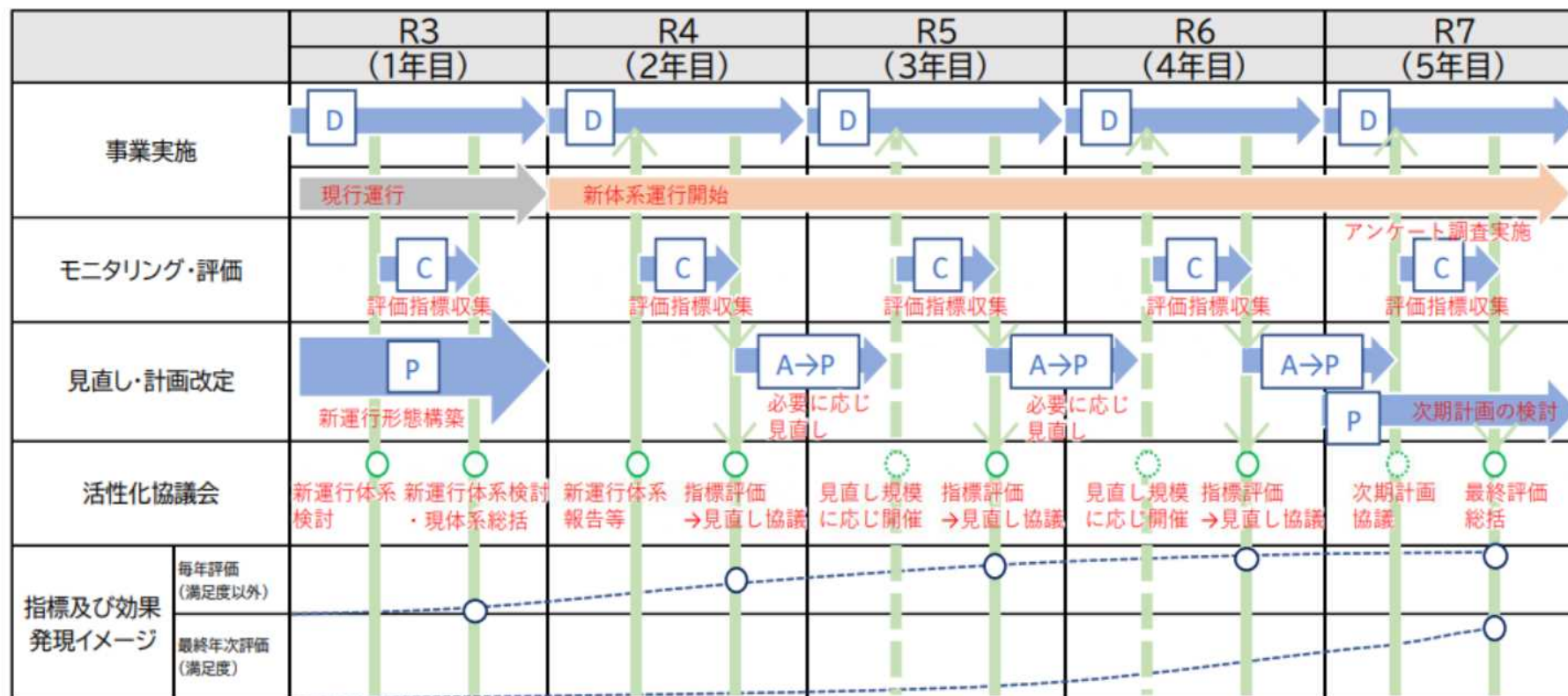
※前回：令和5年2月17日



年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和4年度)	<p>デマンドタクシー移行後の輸送実績において、利用回数が大きく減少しており、特に高齢者の外出回数が減っていると考えられるため、更に細かな分析、調査を通じ、現状を把握し、課題を整理の上、今後の対策を検討されることを強く期待します。</p>	<p>輸送実績が減少したことに関する分析・調査については未対応。</p> <p>高齢者の外出回数の増加を意識し、デマンドタクシー活用例などをCATV内やケアマネ連絡会で紹介した。</p>	<p>R7年度中に次期計画を策定するにあたり、同年に行う予定の町民アンケート調査を前倒しし、R6年度に実施する予定。デマンドタクシー利用者にも調査を行い、課題を整理し、必要に応じて次期計画に反映させる。</p>
	<p>町内を運行する地域間幹線系統のうち、輸送量が低迷している系統について、現状や問題意識を県・関係市町・関係事業者と共有するとともに、当該系統の必要性に応じ、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します。</p>	<p>県、支局、運行事業者、沿線市町が出席して行う、路線バスの「生産性向上の取組みに関するWG」に参加。各系統の現状を把握し、利用者促進に関する取組みについて情報共有している。高齢者運賃補助制度、高校生の通学定期補助制度を継続し、路線バスの利用促進に努めた。</p>	<p>輸送量が極端に少ない路線について協議を進め、R6.4月より廃止または減便を予定している。</p> <p>重複区間が多い路線についても、輸送量増加や路線の維持を目的に、減便や集約の協議を進める。</p>

※前回：令和5年2月17日

## &lt;進捗管理（PDCA サイクル）計画&gt;



## 【協議会の実施状況】

## 令和4年度

- 第1回協議会 6月21日 主な協議：確保維持改善計画策定、路線バス運行ルート変更  
 第2回協議会 11月28日 主な協議：確保維持改善計画一次評価、路線バス運行ルート変更

## 令和5年度

- 第1回協議会 6月5日 主な協議：確保維持改善計画策定、指定停留所の追加  
 第2回協議会 11月20日 主な協議：確保維持改善計画一次評価、路線バス減便・廃止協議

資料No.1

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年11月20日

協議会名: 越前町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
朝日自動車株式会社	朝日デマンドタクシー	前回評価結果より、高齢者の外出回数の増加に繋がるよう、高齢者に身近な介護支援員等に対し、デマンドタクシーの仕組みについて周知を図った。 利用者より要望の多かった指定停留所を1箇所追加し、利便性向上を図った。	A タクシー事業者による適切な運行が実施された。 また、CATVやホームページ等で利用促進のための周知活動を行った。	B 計画運行回数976回、目標人数2,169人に対し、468回、548人であった。 利用者は徐々に増加傾向にあるが、リピーターの利用が多く、新規利用者が伸び悩んだ。	主な利用者である高齢者への浸透を図るため、周知活動を継続するほか、デマンドタクシーを使った外出を促進し、新規利用者の獲得に努める。
有限会社日の丸タクシー	宮崎織田デマンドタクシー	前回評価結果より、高齢者の外出回数の増加に繋がるよう、高齢者に身近な介護支援員等に対し、デマンドタクシーの仕組みについて周知を図った。 利用者より要望の多かった指定停留所を1箇所追加し、利便性向上を図った。	A タクシー事業者による適切な運行が実施された。 また、CATVやホームページ等で利用促進のための周知活動を行った。	B 計画運行回数976回、目標人数1,713人に対し、1,141回、1,362人であった。 運行回数は計画を上回ったが、乗合率が1.2と低く、利用人数は計画を下回った。	主な利用者である高齢者への浸透を図るため、周知活動を継続するほか、デマンドタクシーを使った外出を促進し、新規利用者の獲得に努める。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 5年 11月 20日

協議会名:	越前町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>越前町においては、越前町北部からJR福井駅方面に京福バス、越前町南西部からJR北鯖江駅・JR武生駅に福井鉄道バスが運行している。町内には鉄道駅がないため、民間の路線バスを幹線系統と位置づけ、それに接続するコミュニティバスで交通網が形成されている。路線バスは主に高校生の通学と高齢者の通院の広域移動に、コミュニティバスは主に高齢者の日常の移動に利用されている。</p> <p>しかしながら人口減少と高齢者の自動車免許保有率の高止まりにより、公共交通機関利用者数は減少を続け、路線バス、コミュニティバス事業の収支悪化による行政負担の増加で便数の減便を余儀なくされている状況である。そこでコミュニティバスに代えてデマンドタクシーを運行し、利便向上と運行収支の改善を目指す。</p> <p>そのためには、地域公共交通確保維持事業により、地域間幹線ネットワークの拠点である西田中バスターミナル、織田バスターミナルと接続するフィーダー系統を確立し、住民の生活交通手段を維持存続させていく必要がある。</p>